

日本文化財保存修復国際センター構想 の実現について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

京都は、多くの文化財を有し、かつ、京都国立博物館や文化財保存修理所が置かれるとともに、文化財修復技術を学ぶ学科が府内の大学に新設されるなど、高度な修復技術と人材が培われており、更に、世界では価値の高い日本の文化財を所蔵する美術館や博物館等の修復ニーズが高まっている。こうした中、京都府では、これらのポテンシャルを活かし、世界トップの日本文化財修復地域を目指す「日本文化財保存修復国際センター構想」を策定し、文化財の特性やランクに応じた修復をアドバイスする仕組みづくりや地域特性を活かした修復拠点・人づくり拠点を構築することとしており、その実現のため、国において、以下の措置を講じていただきたい。

京都国立博物館の収蔵庫の拡充等による京都の文化財修復機能の強化

- ◆ 高度な文化財修復技術を有する京都では、多くの指定文化財の修復にあたっているが、修復に必要なスペースや収蔵庫に限界があるため、受入数にも限界がある。受入れまでに時間を要することにより、その間に損傷が拡大することがないように、**京都国立博物館や文化財保存修理所の作業スペースや収蔵庫を拡充**するなど、京都の修復機能を強化していただきたい。

文化財修復に関する設計・施工・管理マネジメントを行う資格の創設

- ◆ 国や都道府県の指定を受けていない文化財であっても、文化史的・学術的に価値の高い文化財が国内外に多く存在している。京都府では、これらの保護・修復を適切に行う仕組みを構築することとしており、国においては、**修復に関する設計・施工・管理マネジメントを行う資格を創設**していただきたい。

文化財修復を支援する「文化財修復ファンド（仮称）」の創設

- ◆ 文化財の保存修復には、繊細な工程と高度な技術が必要であり、多額の経費を要することから、国内外に多くの未来へと守り伝えるべき貴重な財産が修復されることなく放置されている。ついては、これらの**修復を支援するための「文化財修復ファンド（仮称）」を創設**していただきたい。

文化財の災害時避難拠点となる「文化財保護拠点」の京都での整備

- ◆ 災害が起きた場合には、地域にある文化財を保護し、後世に伝えていくことが地域のアイデンティティを失わないためにも重要であることから、万一の際より多くの文化財を保護するための計画を策定するとともに、災害時の保護活動に対応可能な人員の確保や基金の設置など、**保護活動が円滑に推進できる制度を創設**していただきたい。
- ◆ 東日本大震災では、広範囲から多様な文化財が保護されたが、収蔵や本格的な修復を被災地だけで行うには困難な状況にあるため、これらの保護保存を推進する**文化財保護拠点を京都に整備**していただきたい。

京都府の現状・課題等

◎ 日本文化財保存修復国際センター構想

1 趣旨

高度な修復技術と人材が培われている京都の総合力と府内各地域のポテンシャルを生かした世界にある日本の文化財修復に向けた拠点づくりや、そのネットワークづくりなどの研究を行い、世界トップの日本文化財修復地域を目指す

2 事業内容

(1) 「日本文化財保存修復推進協議会（仮称）」の創設

協議分野

- ①文化財の特性やランクに応じた修復をアドバイスする仕組みづくり
- ②地域の特性を生かした修復拠点のあり方
- ③文化財修復に関わる人づくりの拠点づくり
- ④文化財修復関係機関のネットワークづくり
- ⑤文化財修復に関する先端技術の開発

(2) 文化財等修復機能実現調査等の実施

文化財修復に係る情報の収集・分析とシステムづくり、総合力を発揮するためのネットワークづくりに関する調査や基本構造の構築

◎ 京都府内における文化財修復の教育機関

- 学校法人二本松学院 京都美術工芸大学（南丹市）
 - ・工芸学部文化財修理コース
- 学校法人京都橋学園 京都橋大学（京都市）
 - ・文学部歴史遺産学科

【京都府の担当部局】

| | | |
|---------|---------|--------------|
| 商工労働観光部 | 産業労働総務課 | 075-414-4819 |
| | 染織・工芸課 | 075-414-4858 |
| | 産業立地課 | 075-414-4848 |